

障害物の掛け金（カップ）の深さについて（変更）

令和4年度版 競技会関連規程集に記載されている通り、2023年4月1日付けで、掛け金（カップ）の深さの規程が変わります。公認競技会主催者および競技場を運営している関係者の皆様におきましては、今一度ご確認いただき、ご対応くださいますようお願いいたします。

変更前：掛け金の深さは18mm以上、30mm以内

変更後：掛け金の深さは18mm以上、20mm以内
※セイフティーカップにも適用されます。

ただし、

- 幅障害のバックポールのセイフティーカップの深さ
- オープン水濠障害の上に設置する垂直障害の上段のセイフティーカップの深さ

は共に18mm以内

上記以外は20mm以内と定められていますのでご注意ください。

詳細につきましては、以下、競技会関連規程集の抜粋をご確認ください。

<令和4年度版 競技会関連規程集からの抜粋>

第3章 障害物

第208条 障害物－概略

5. 六段障害飛越競技とピュイッサンス競技、~~パワーアンドスキル競技~~を除いては、いかなる場合も障害物の高さが1.70mを超えてはならない。幅障害は2.00mを超えるものであってはならないが、例外としてトリプルバー（三段横木）の最大幅は2.20mとする。この制限は1回あるいは数回のジャンプオフにも適用する。水濠障害の奥行は、踏切部分を含めて4.00mを超えてはならない。
6. 横木とその他の障害物構成パーツは、掛け金（カップ）で支えるものとする。横木は掛け金の上で回転し得る状態になければならない；この場合、掛

け金の深さは18mm以上、30mm以内とする。2023年4月1日付けで、掛け金の深さは18mm以上、20mm以内とする。これはセイフティーカップにも適用する(詳細は第210条1参照)。特殊な障害物素材やプランク、欄干、障壁、ゲートなどの掛け金については、通常の掛け金よりも開いているか、あるいは平らなものでなければならない。(国際競技会は2023年1月からこのルールを適用)

7. 本規程と最終実施要項に記載された障害物の高さとの幅の制限は、細心の注意を払って遵守しなければならない。しかし、障害物に使われている材料や設置された場所によって規定の大きさを多少超えるような場合は、規定の上限を超えたとはみなされないが、使用可能な材料を用いて実施要項に記載されている大きさの上限を超えないよう、最大限の努力を払っていることを条件とする。実施要項で高さ最大を1.45mあるいはそれ以上と記載している競技では、競技に使用する障害物の高さをコースデザイナーの判断で要項記載の高さより3cmを限度として高くできる。しかしインドア競技(パワーアンドスキル競技を除く)における障害物の高さは、いかなる場合でも1.65mを超えてはならない。

第210条 幅障害

1. 幅障害は高さとの幅の両方で飛越に努力を要するよう造られた障害物である。幅障害の奥の横木や、トリプルバーの中央と奥の横木には掛け金としてFEI認可のセイフティーカップを使用しなければならない。2023年4月1日付けで、幅障害のバックポールについてはセイフティーカップの深さを18mmまでとする；トリプルバーの中央横木、あるいは他の障害物下段横木に使用するセイフティーカップは最大で20mmの深さとする。競技アリーナおよびスクリーニングエリアでは認可されたセイフティーカップの使用が義務づけられる。(国際競技会は2023年1月1日から)

第211条 水濠障害、垂直障害を伴った水濠障害、およびリバプール

10. オープン水濠障害の上には高さ1.50mまでの垂直障害のみ設置でき、これに使用する横木の数に制限はないが、すべてにFEI認可のセイフティーカップ(障害馬術規程第210条1参照)を使用する。垂直障害の上段横木のセイフティーカップは深さ18mmとする；下段横木のセイフティーカップは深さ20mmまでとする。(2023年4月1日から；国際競技会は2023年1月1日から)垂直障害はこの水濠障害正面から2.00m以内に設置することとする。この障害物は水濠障害ではなく垂直障害として審査される。その為、限界を指定する着地板やその他の措置を講じる必要はない。着地板が使用されている場合は視覚的補助と考え、これに何らかの跡が残っても減点とはならない。踏切側の障害構成パーツが移動した場合でも同様に判断する。水濠障害の上に設置する垂直障害には、長さ3.50m以上の横木のみ使用できる。